

活動テーマ

東秩父村の観光・地域資源の再発見と発信

東秩父村全域 城西大学

1 活動目的

消滅可能性自治体として選出されてしまった東秩父村の魅力を、学生目線で新たに発見し、広く発信することで、東秩父村の認知度を高めて、人の行き来を盛んにすることを活動の目的とする。

城西大学経営学部三國ゼミ卒業生が、東秩父村で和紙作り職人になったことから、ゼミ内で東秩父村を盛り上げようという活動目標が浮上したことがきっかけとなってこの活動を始めている。また、今年度、東秩父村と城西大学との相互連携に関する基本協定が締結されたことから、大学としても東秩父村との連携を深めていこうとする機運があったことも背景にあった。

デザイン思考を用いて地域の課題に取り組む、というゼミのテーマを、東秩父村を舞台にどこまで達成できるかも、活動目的の一つであった。



和紙職人として活躍するゼミ卒業生

2 活動地域の現状

埼玉県西部に位置する東秩父村は、県内唯一の村であり、面積は約 37.06 平方キロメートルである。人口は高度経済成長期以降減少傾向にあり、1965 年の 5,346 人から 2021 年 12 月には 2,642 人と半減している。出生数は、2011 年から 2018 年にかけて年間 6～13 人程度で推移していたが、2023 年の出生数は 2 人となってしまった。2025 年 2 月 1 日時点の推計人口は 2,375 人である。主要産業は製造業などの商工業であり、豊かな自然や「和紙の里」といった地域資源を活かした観光業の振興も図られている。しかし、若年層の就労の場の不足や公共交通機関の整備遅れによる生活の不便さから、人口減少が進行し、高齢者世帯の割合が高くなっている。

地域コミュニティでは、和紙の伝統文化を継承する「和紙の里文化フェスティバル」や「版画フォーラム」などのイベントが開催されている。また、花桃や山ツツジの名所、キャンプ場、秩父高原牧場などの観光拠点が整備され、多くの日帰り観光客で賑わっている。しかし、一人暮らし高齢者や高齢者夫婦のみの世帯の増加により、相互扶助など集落の基礎的な機能が困難になるなど、地域コミュニティの維持に課題が生じている。

3 活動内容

東秩父村の魅力を発信する活動は、以下のように、SNS による発信、紙媒体による発信、イベントによる発信などの方法で実施された。

① SNS による発信

Instagram アカウントを作り、東秩父村で取材したニュースをアップした。また、ショート動画も作成して、若い人が興味を持ってくれるようなコンテンツをアップするようにし

た。海外からの問い合わせがあるなど一定の成果はあったが、フォロワー数が思うように増えないなどの課題も出てきた。

② 「東秩父村通信」の発行

各号それぞれ編集テーマを設けて、そのテーマに沿って村内を取材した。東秩父村の魅力あるエリア、東秩父村で体験してみたこと、東秩父村で働く人へのインタビューなどがテーマに選ばれた。1年間で、第1号から第3号まで、さらには訪日外国人旅行者に向けた英語版を発行することができた。

③ 大学イベントにおける情報発信

城西大学の学園祭で東秩父村のPRコーナーを作り、ポスター展示等で魅力を伝えた。また、東秩父村を舞台にした短編映画を上映したり、東秩父村に関するクイズイベントを実施したりして、東秩父村の認知度を高めるイベントを実施した。



④ 外国人旅行者に対するPR活動

英語版の「東秩父村通信」を東京・浅草で訪日外国人旅行者に配布する活動を実施した。豊かな自然を満喫できること、和紙漉き体験ができることなどを学生が英語で伝えることにも挑戦した。日本の地方に興味を持っている外国人も多く、学生の話に熱心に耳を傾けてくれた。



パネル展示で村の魅力を伝えた



⑤ 農作業への参加（地域住民との交流）

槻川小学校の児童とともに稲刈り体験をし、また、地域の方と一緒に楮（和紙の原料）の皮剥き作業にも取り組んだ。作業をしながら東秩父村の情報を得て、東秩父村通信の記事に反映することもできた。

訪日外国人旅行者に向けた英語によるPR活動



⑥ 和田中学校におけるPR活動

東京都杉並区にある和田中学校で、約200名の全校生徒に向けた授業を実施した。「消滅可能性自治体を救え！」というテーマで、人口減という大きな課題を抱える東秩父村の現状、自然豊かな東秩父村の魅力、「ふるさと支援隊」としてのゼミナールの活動について、クイズなどを交えながら伝えた。「東秩父村に行ってみたいと思った」「大学生が地域活動をしていることを初めて知った」「大学生になったら地域の活動に参加したい」などの生徒の感想があった。

地域の方と共に楮の皮剥き



4 成果

和田中学校での授業

初年度のふるさと支援隊の活動では、学生たちが東秩父村の魅力を発見し、それを発信するという点で、一定の成果を上げた

① 東秩父村の魅力の発見

学生たちは複数回東秩父村を訪れ、村内を歩きながら村の事物を実際に観察し、手に触れ味わうなど五感で体験することで村の魅力を発見した。特に秋学期には「東秩父村通信」の取材を通じて村の人々と対話する機会が増え、人との交流が新たな発見につながることを実感した。

② 東秩父村の魅力の発信

SNS での発信は思うようにフォロワー数を増やせなかったこともあって、「東秩父村通信」の制作に力を入れるようになった。オールドメディアである紙媒体の制作を通じて、取材や編集、発行のプロセスを学び、情報発信の楽しさと同時に難しさを実感した。また、「東秩父村通信」の配布活動を通じて人とのつながりの大切さも学ぶことができた。最終的に「東秩父村通信」第 1 号から第 3 号と英語版を含む 4 号分の発行ができたことは、大きな成果であったといえる。

5 課題

大学生などの若者に自分たちの活動を通して東秩父村を認知してもらっているという実感がまだ持てていないこと、「学生ならではの目線」で新しい魅力をまだ十分には発見できていないこと、東秩父村の住民との交流がまだ始まったばかりで自分たちの活動を認知してもらうまでには至っていないこと、ゼミ生全員がまだ十分には活動に参加できていないこと、具体的には、複数回東秩父村を訪ねたゼミ生がいる一方でまだ一度も訪ねていないゼミ生がいること、SNS のフォロワー数が当初予想したほどに伸びていないこと、などが 1 年間の活動を通して浮かび上がってきた課題であった。

6 次年度以降の計画

今年度の活動を継続させることと、新しい活動に取り組むこと、これが次年度以降の計画として検討されている。

① 「東秩父村通信」の継続発行

東秩父村で働く人々、暮らす人々に取材する機会を増やし、より深い情報を発信することを目指す。また、英語版の他、AI を活用しながら中国語版の情報発信も検討している。

② 東秩父村に関するボードゲームの制作

紙漉きの手順を学べるゲーム、村の名所を巡るゲーム、村の歴史を学ぶゲームなど、遊びながら東秩父村について知るゲームの開発を目指す。槻川小学校の児童に遊んでもらうイベントも企画している。

③ 東秩父村の魅力を伝える映像の制作

東秩父村のニュース制作、東秩父村を舞台にしたショートムービーなどの制作を企画している。

④ 東秩父村の認知度を高めるイベントの開催

今年度に杉並区和田中学校で実施したような、東秩父村の認知度を高めるようなイベントを企画する予定である。

以上、次年度は、東秩父村のより深い魅力を、地元住民とコミュニケーションをとりながら発見し、さまざまなメディアを通して広く発信することを目指す予定である。